

書林

第104号 2024年4月1日発行

巻頭言	1-2
私の薦めるこの1冊	3-5
自著紹介	6
Welcome to SGU Library(図書館施設案内)・・・	7-8
ブックハンティング／読書会	9
ビブリオ・トーク／図書館SNS紹介	10
図書館グッズ紹介	11
from Library／編集後記	12



学生のみなさんは、図書館をどのような場所と考えているだろうか。

「何かの役に立つのですか」「何の意味があるのですか」この問いは現代に限らず、10年前も、30年前も同じで、学生からあったと思う。

私自身は、図書館を「孤独になれる場所」と思っている。孤独は決してネガティブな意味ではない。小学校から大学に至るまで集団スポーツの部活にばかりはいっている私にとって、集団行動から「理由をもって」離れられるのが図書館という場所だった。もちろん、仲間と話したりすることは楽しい。一方、気を遣うことも多々ある。好きな友人だからこそ、話したくないこともある。そんな時、静寂な「図書館にいる」ということが私の精神的な安定を保っていたように思う。

大学時代の図書館では、6人掛けの大きな木のテーブルの隅に座るのが好きだった。山の中にある大学の窓からは、自然豊かな四季折々の風景が見える。斜め向かいに座った見知らぬ学生が一生懸命何かを見ている。いったい何の本を見ているのだろう。この人は何学部？レポートの準備かな。正解が欲しいわけではない。ぼーっと様子を見ながら、直接交わることがない他人の人生を想像するのも楽しい。

ある時は、難しそうな分野のところに立ってみる。読む気はほとんどないにもかかわらず、手に取ってパラパラとみる。あ、この本じゃなかったわ、といわんばかりに、戻す。たまに、友人が図書館に探しにくると(当時は携帯電話がないので、大学生同士は友人の居場所を心当たりだけで探していた)「え、すごい難しい本読めるね」いえいえ、ただそこに置いてみただけなのだけれども。



※『ミクロ経済学』初版の画像ですが、未所蔵です。第2版、第3版は所蔵しています。

そんな中、まれに「読んでみようかな」という文章に出会うことがある。冒頭、あるいは目次をみただけで、その場で戻す予定が、席に戻り座って読んでみようか、という気持ちになる本である。

私は大学時代のゼミ教員に「経済学って何かの役にたつのですか」と聞いてしまったくちだ。だが、想像とは違う答えが返ってきた。「君、おもしろいこというね」「そういう疑問があるなら、経済学を学ぶ意味があるんじゃない？」そして図書館の経済学のコーナーで「たまたま」出会ったのは伊藤元重『ミクロ経済学(初版)』、ミルトン・フリードマン『選択の自由』だった。この2冊から私は経済学を



学ぶ意義を考え、その答えを見つけるべく大学教員・研究者となったともいえる。ちなみに、イギリスの女性経済学者ジョーン・ロビンソンの「経済学を学ぶ目的は、経済問題に対する受け売りの解答を得ることではなく、いかにしてそのようなことを語る経済学者にだまされないようにするためだ」の言葉は有名だが、彼女がこのように言った背景や、引用する人たちの学説的立場を知るとより面白い。

大学は、学生のどのような問いにも「学術的」に答える場所だと思う。教員が与えるだけではなく、環境も含めて、である。大学の図書館は、目的をもって利用するばかりの空間ではない。書籍たちとの偶然による出会いの場だ。書籍がもたらす知識、世界観によって人生が変わることがある。そして、人間関係に疲れたとき、孤独でいる自分を守ってくれる場所でもある。

皆さんたちも、ぜひ大学生活の中で「孤独になれる」場所として図書館を大いに活用してほしい。そして、最初は装丁やみかけからでもいい。本を手にとってみることだ。言語も内容もわからなくてもいい。意味も見出さなくてもいい。「読まなければならない」「学ばなければいけない」という義務感は捨てて、もっと自由に「本のある空間」を楽しんでもらうことを願っている。

余談だが、この文章を書いているときに、孤独を前向きにとらえる学術的な知見はないだろうか、と調べ始めたところ、青年ヘーゲル派のマックス・シュティルナー（ドイツの哲学者）の「孤独は知恵の最善の乳母である」という言葉に出会った。

シュティルナーは、『共産党宣言』『資本論』で有名なカール・マルクス、フリードリヒ・エンゲルスらに影響を与えたとされる。シュティルナーはエゴイズムを軸とした論を展開しているので、マルクスらは思想的に批判から始まるのだが、果たしてシュティルナーの哲学観を正確に理解していたのか、という研究が現在されている。

実は上記の話、「シュティルナー知っていますか？」という問いを「マルクス経済学」研究の同僚にしたところ、資料とともに教えてもらった。ちなみに私はフリードマンを読んだということからもわかるように、いわゆるアダム・スミスを祖とする「近代経済学」の系譜である。よって、通常の研究活動からは出会わない学問に触れたことになる。何歳になっても、こんな出会いは本当に楽しい！！

所蔵情報

『ミクロ経済学, 第2版』伊藤元重著 日本評論社

【札幌・移動：和書B 書架番号 61-78 331/IT0】

『ミクロ経済学, 第3版』伊藤元重著 日本評論社

【札幌・移動：和書A 書架番号 25-58 331/IT0】

※『ミクロ経済学』の初版は未所蔵

『選択の自由：自立社会への挑戦, 新装版』M&R・フリードマン著/西山千明訳 日本経済新聞出版社

【札幌・移動：和書A 書架番号 25-58 332.53/FRI】

『共産党宣言』マルクス, エンゲルス著/村田陽一訳 大月書店

【江別・1層書架：和書 309.3/MAR/1】

『資本論1, 1』カール・マルクス著/岡崎次郎訳 大月書店

【江別・2層書架：文庫 331.6/MAR/1】※全9巻所蔵あり



私の薦めるこの1冊

『開かせていただき光栄です』 皆川博子著 早川書房



舞台は18世紀のロンドン。当時の先端技術であり偏見に晒された解剖学的見地から、外科医ダニエルと弟子たちが連続殺人と不可能事件の謎に挑む、というミステリ小説です。この小説は2012年に本格ミステリ大賞を受賞し話題となりました。この本は日本の小説家である皆川博子さんが書いており、小説にも日本文学と海

外文学がある中で、和訳した小説が苦手な方も楽しめる小説だと思います。たしかにすらすらと読める文章ではないかもしれませんが、途中には物語を読み進めたいのか文章を味わいたいのかわからなくなるほど、人物の心情の機微や舞台の陰鬱な雰囲気を重ねて感じられます。

最近、続編である『アルモニカ・ディアボリカ』が図書館の蔵書に追加されたので、この機会に『開かせていただき光栄です』を手にとっていただけると嬉しく思います。

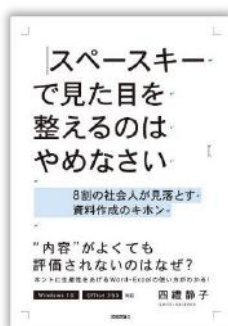
法学部法律学科3年 小林琉花

所蔵情報

【江別・1 層書架:和書 913.6/MIN】

『スペースキーで見た目を整えるのはやめなさい』

: 8割の社会人が見落とす資料作成のキホン』 四禮静子著 技術評論社



「スペースキーで見た目を整えるのはやめなさい」。そう言われても、じゃあどうしたらいいのだろうか、と疑問に思う人も少なくないでしょう。

このような、Office365を使っている時の「どうしたらいい」を解決してくれるのがこの本です。見栄えのいい文書作成の仕方や、ページ設定のコツ、効率の良い文書作成の仕方など、さまざまな視点から事例を紹介しています。分からなくなった時に本を出して調べてみ

るのもよし、初めから終わりまで熟読して知識をつけるのもよしの万能本です。私は最初から最後までとりあえず読んでみて、実践できることは早速取り入れています。いつかすべてのコツを覚えて使いこなしたいです。

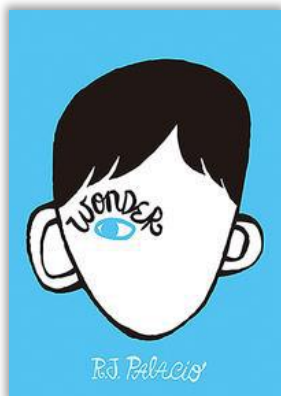
私たち大学生には、いろいろな講義でレポートが課されます。昔は手書きだったレポートも、今ではほぼパソコンで、Wordなどのソフトを用いて作成します。言葉遣いや文の構成は講義で習うことが出来ますが、ソフトの発展的な使い方まで触れることができません。ぜひ、この本を読んで、カッコいいレポートを作りませんか。

経済経営学部経営学科3年 中林真優

所蔵情報

【江別・1 層書架:和書 007.63/GIG】

*学生の情報は、2024年2月時点のものです



人は外見で判断すべきではない。皆さんも、小さい頃から言われてきたのではないのでしょうか？10歳の少年オギーは、アメリカの私立中等部の1年生（日本の小学5年生）ですが、学校に通ったことが一度もありません。「頭蓋（とうがい）顔面異常」で生まれ、27回もの手術を受けて入退院を繰り返してきたのです。特に顔が、他の子どもとは著しく異なります。初めて会った人は、「驚愕、嫌悪、恐怖」の目で見るので、オギーは人の視線を異常なまでに意識します。

勉強は母親が自宅で教えており、学力は身につけています。ただし母親は算数が苦手なため、十分に教えられないことを嘆きます。3つ年上の姉がいる4人家族の中では、比較的のびやかに育っています。しかし、同世代の子どもとの接触がほとんどないオギーは、果たして学校生活を過ごせるのでしょうか？

「現実とどう向きあうか学ばせる」こと。これが親の務めだと母親は考えます。家族で話し合った結果、オギーは戸惑いながらも、学校へ行くことに決めます。しかし、学校では予想以上の困難が待ち受けているのです。子どもは思ったことを率直に言動に表すので、オギーは度々傷つきます。クラスや学校の子どもたちがオギーの顔に慣れるのに時間を要しますが、良き理解者も少しずつ現れます。学校初日に英語（つまり国語）の先生が、「自分がなんなのかを学ぶことこそ、きみたちがここでやるべきことだ」と教室で語ります。この意味をオギーは考え、少しずつ成長していくことになるのです。

今後の展開、そして題名の意味を予想しながら読むと面白いでしょう。この小説は子ども向けに書かれたものですが、新入生の皆さんも得ることが多いはずです。オギー以外に、別の登場人物の視点から描かれた章もあり、多面的に物語を読めることも魅力の一つです。映画化もされていますので、比較してみてください。英検準2級以上の人は、翻訳を参考に、英語で読んでみることもお勧めします。

人文学部英語英米文学科教授 中村敦志

※未所蔵のため、注文中



『Wonder ワンダー』は
新入生におすすめ！

『きみのお金は誰のため：ボスが教えてくれた「お金の謎」と「社会のしくみ」』

田内学著 東洋経済新報社



あなたにとってお金とはどういう存在ですか。

年収は多い方がよい、貯金が多ければ幸せで安心、生活を支えるのはお金だと思いますか。

この本によるとその考えはお金の奴隷になっている証拠だそうです。

世間ではお金にまつわる本—お金を増やす株や投資、税金対策などピンポイントで解説してくれるハウツー本がたくさん出版されていますが、ご紹介する本はお金の本質についての学びです。またこの種類の本にしては珍しく「小説」の形式で、経済の知識がなくても読みやすいです。

富豪のボスの元でお金について学ぶことになった主人公の中学生と投資銀行勤務の女性は、「お金自体には価値がない」「お金で解決できる問題はない」「みんなでお金を貯めても意味がない」と言われ仰天します。その真意を解明すべく講義

を受けるうちに、お金を自分の意志に従って道具として考えられるようになり、経済はお金を中心として考えるのではなく、人を中心に社会全体を捉える必要性について学んでいきます。

今の時代、私達は早く効率よくが良しとされ、日々の忙しさに目の前のことに集中しがちですが、物事を俯瞰的に捉える視点を忘れてはいけないと教えられました。

社会は目に見えないところで何かが繋がっていて、私達はその世界で生きているとも。

未来を生きる若者には是非主人公のように考えてもらいたいと思います。

図書館新札幌分館では、経済経営学部、心理学部関連の所蔵本が主で、勉強に関する本ばかりと思われるかもしれませんが、実はご紹介したような新たな視点を持った本も書架にあります。そのような本に出会えるかはあなた次第。

資料検索でお目当ての本を書架で探すついでにその周辺の本にも目を向けてみてください。

思わぬ発掘本があるかもしれませんよ。

新札幌分館スタッフ（丸善雄松堂）青木雅子

所蔵情報

【札幌・移動：和書A 書架番号 25-58 330/TAU】

図書館同好会募集中!!

一緒に図書館を盛り上げてくれる同好会メンバーを募集しています

* 過去の活動例 *

- ・本や映画の展示
- ・イベントの企画・宣伝・運営
- ・フリーペーパーの作成・発行
- ・図書館SNSの投稿作成
- ・書店での選書ツアー（ブックハンティング）の参加

やってみたいこと、
できることを
一緒に考えましょう!

こんなあなたを
待っています

- ☒ 本が好き、図書館が好き!
- ☒ 好きなものを誰かにオススメしたい!
- ☒ 新しいことをやってみたい!

下記宛先へメール、または図書館カウンターでお尋ねください。

メールアドレス: tosyokan@ims.sgu.ac.jp

(件名を『図書館同好会について』とし、本文中に学籍番号・氏名・連絡先を記載してください)

お気軽に
どうぞ!!



自著紹介

『消費税改革の評価－効率性と公平性の経済分析』

田代歩著 関西学院大学出版会 2023 年



本書は経済学のツールを用いて消費税の税制改革の効果を分析し、社会にとって望ましい消費税の制度設計を考察した研究書です。日本では、1989 年 4 月に物品税と呼ばれる税金

が廃止され、新たに消費税が 3%で導入されました。これまでに消費税率は 3 回引き上げられ、現在は 10%となっています。所得税、法人税、消費税は日本の税収を支える基幹税として位置づけられています。2024 年現在の公表では消費税が約 23 兆 4000 億円と最も高い税収となっています※。このように、消費税は私たちの生活を支えるために必要不可欠な税金となっています。ヨーロッパなどの海外では消費税と同じ性質をもつ付加価値税(Value Added Tax)が導入されており、さまざまな制度が構築されています。

日本の消費税率は 10%ですが、食料品には 8%の消費税率が適用されています。これは、政府が導入した制度であり、軽減税率と呼ばれています。軽減税率によって食料品の消費税率を低く設定す

ることで、低所得者世帯の税負担を小さくする効果が期待されています。軽減税率はイギリスやフランスなどでも積極的に導入されています。本書はとくに消費税の軽減税率に焦点を当てて税制改革の効果を論じています。

軽減税率は年齢階級によって効果が異なると考えられます。例えば、20 歳代や 30 歳代の年齢階級で食料品の支出の水準が高ければ、軽減税率は若い年齢階級の税負担に着目した政策であると判断できます。一方で、高齢者世帯であまり食料品の支出が高くなければ、軽減税率の効果はあまりありません。つまり、年齢階級によって消費者がどのように消費行動を変化させるかによって軽減税率の効果は変化すると捉えることができます。

本書では、年齢階級の消費データを使って消費行動の変化を検証しており、これを「年齢効果」と定義しています。「年齢効果」によって消費者がどのように消費行動を変化させるのかを考慮したうえで軽減税率の効果を分析している点が本書の大きな特徴です。どのような条件であれば軽減税率が支持されるのか、いかなる軽減税率であれば社会を改善することができるのか、このような問題意識のもとで多様なデータを使って経済学の実証分析を行い、消費税の制度設計に関する学術的な知見を与えている点が本書の貢献です。

※財務省「身近な税」の消費税より引用。

※当該図書は、独立行政法人日本学術振興会『令和 5（2023）年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）』の「研究成果公開促進費（学術図書）」JP23HP5117 による交付を受けたものです。

所蔵情報

【札幌・移動：和書 A 書架番号 25-58 345.71/TAS】

【札幌・コリドール F(教員著作コーナー・展示) 345.71/TAS】

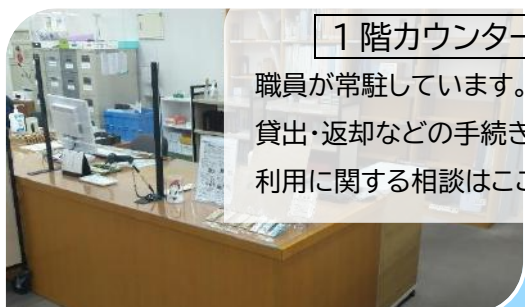
江別本館

施設案内

～どんな場所？ 何ができるの？～

Welcome to SGU Library

江別本館は、江別キャンパス L 棟
(3号館の隣の建物)にあります。



1 階カウンター

職員が常駐しています。
貸出・返却などの手続き、
利用に関する相談はここで！



1 階入り口

入ってすぐのスペースは、
飲食ができるラウンジです

第1 閲覧室(参考図書コーナー)

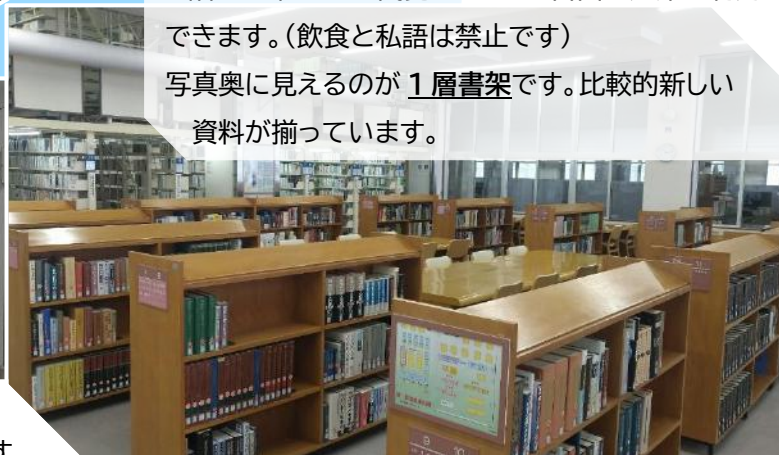
1 階には第1・2・3閲覧室があり、自由に座席を利用
できます。(飲食と私語は禁止です)

写真奥に見えるのが 1 層書架です。比較的新しい
資料が揃っています。



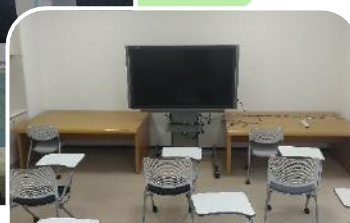
第3閲覧室

左右を区切られた机(キャレル)があり、
静かに本を読んだり、自習するのにオススメです。



2階ラーニングcommons

グループディスカッションやプレゼンができる
会話OKのエリアです。(飲食は禁止です)
ホワイトボードや移動式のテーブル・椅子など、
自由な学習のための設備が揃っています。



Welcome to SGU Library

新札幌分館

施設案内

新札幌キャンパス 2階



図書の貸出・返却、
図書館利用について
いろいろ相談できる
カウンター



入退館ゲート
学生証をかざして出入りする

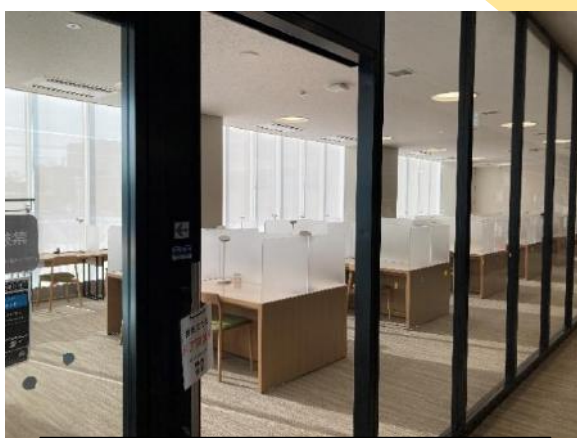
柱の本棚は コリドール
資格試験問題集や就職資料がある



会話ができるアクティブゾーン
カウンター席には電源コンセント



学習室ではグループ学習ができる
プロジェクターもあるぞ！！



ガラスで囲われたサイレントゾーンは
私語厳禁！集中して学習ができる



約9万冊所蔵の本棚
中央の座席を挟んで、右側の
電動書架には経済・経営系図書
左側の固定書架には心理系図書



ブックハンティング 実施しました！

図書館では年に1度だけ、書店に行って図書館に置きたい本を探す「ブックハンティング」というイベントを企画しています。2023年12月14日に実施しましたので、ご報告です！

今回は、図書館同好会に所属している学生や、ビブリオ・トーク（図書館イベント）に参加した学生、職員、全14名が17時に紀伊國屋書店札幌本店に集まり、約1時間かけて本を選びました。

図書館にない本を選ぶため、参加者には事前にOPACで調べてもらいました。そのため、当日はスムーズに選ぶことができたようです♪

そうして選ばれた本は後日、図書館に入荷されました！江別本館と新札幌分館で展示されていて、それぞれ置いてある本が違うので、是非見に来てくださいね♪



📖 NPO 法人「EBETSUto プロジェクト」による 読書会 📖

EBETSUto とは、江別市内4大学の学生が江別市内で地域の人と一緒に自分たちのやってみたいことを実現していくプロジェクトです。読書会はその企画の一つとして2023年6月から開始され、community HUB 江別港や江別市内の大学図書館を会場に開催しています。

この読書会を2024年1月16日（火）に本学図書館江別本館2階のラーニングコモンズを会場に「異世界に連れて行ってくれる本」をテーマに開催いたしました。

読書会は、各自、自己紹介の後、異世界に連れて行ってくれる図書を1冊選び、その図書の紹介やその図書との出会い、その図書をどんな人に勧めたいかなど順番に話してもらい、質問タイムで語り合うという流れで実施しました。

当日は悪天候のため参加者は少なかったですが、参加者それぞれ、その図書に寄せる思いは深く、あっと言う間の楽しい2時間でした。

参加者と異世界図書は、以下のとおりです。

心理学部学生	『獣の奏者』上橋菜穂子著
人文学部教員	『地底旅行』ジュール・ヴェルヌ著
本学職員1	『葬送のフリーレン』山田鐘人原作、アベツカサ作画
本学職員2	『変な家』雨穴著
本学図書館職員1	『文字渦』円城塔著
本学図書館職員2	『ゲド戦記』ル・グイン著
EBETSUto 主催者	『イマジナシオン』toron*著

イベント レポート

Library Event Report



2023 年 11 月 6 日 江別キャンパスにて図書館イベントを開催しました

本学図書館では初開催となったビブリオ・トークとは、

「自分の好きな本＝「推し本」について、トークで紹介するイベント」です。

会場は図書館を飛び出して、C 館 2 階コラボ・エントランスをお借りしました。

当日の様子



ブログに掲載した
イベントレポートは
こちらから！



<https://sgu-library.hatenablog.com/entry/2023/11/13/104006>

ビブリオ・トークは今年度も開催予定です！
くわしい日程が決まりましたら、
図書館ブログや LINE 等でお知らせしていきますので、
ぜひチェックしてくださいね！

図書館の今を 知ろう！



大学図書館をもっと身近に
感じてもらえるように
各種SNSで情報を
発信しています



菜ちゃん

LINEアカウント

図書館ブログ

江別本館

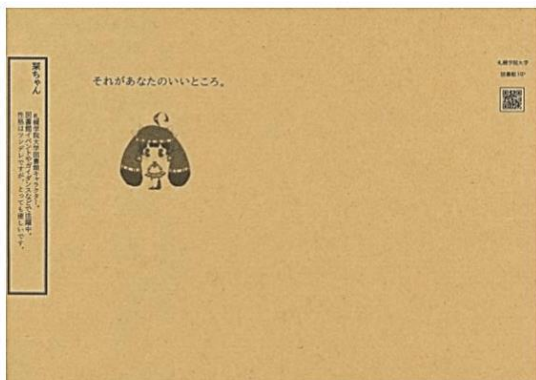
新札幌分館



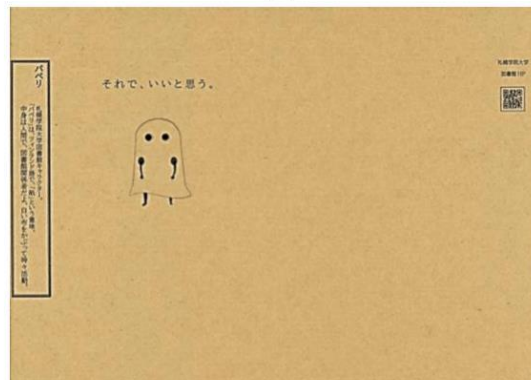
図書館グッズ ご紹介

★ 図書館でもらえるよ ★

1



2



3

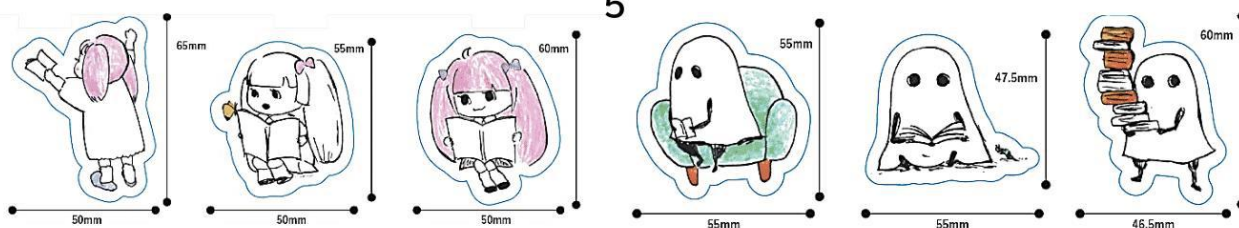


4



かわいい
図書館キャラクター
菜ちゃんとパペリが
グッズに登場！

5



1・2 | ブックカバー

新書・文庫サイズ(左:菜ちゃん/右:パペリ)

クラフトペーパーなので表紙が透けにくいよ！

キャラクターの一言も掲載

3・4 | しおり

クラフトペーパーを使用！ブックカバーとおそろい♪

5 | ステッカー

ノベルティグッズとして考案したもので、イラストは6種！

2024 年春、図書館 LINE 公式アカウントに友だち登録をしたら

ステッカーがもらえる、というキャンペーンで登場！



若者の読書離れ

富樫ふゆ子（図書館職員）

「若者の読書離れ」という言い回しを、あなたは目にしたことがあるだろう。そしてこう思ったことはないだろうか。「若者の読書離れ」ってだいぶ前からずっと言ってるような気がするけど、いつから言ってるんだ？

一体若者はいつから読書から離れ始めたのか。

「朝日新聞クロスサーチ」という図書館が契約している新聞記事データベースを使って「読書離れ」というキーワードで検索した。すると（本学で契約しているスタンダードプランの及ぶところでは）最古の記事は1984年の1月23日であった。ちょうど40年前である。吉田秀和によるコラム「音楽展望」に「若者の読書離れ」というサブタイトルがついている。吉田が「音楽文筆業の道に入った」「戦後間もないころ」は、よく出版社から「新制大学教養部の学生にもわかるよう書いて下さい」と注文がきたものだが、最近はその注文も聞かない。なぜかというところ『このごろの若い人は本をさっぱり読まなくなった』という返事が返ってくる。どの出版社の人も、口をそろえて、そう言う。」これは吉田の主戦場たる音楽評論の分野に限った話ではないらしい。1989年9月7日の記事。「子どもの本に未来はあるのか？」『読書離れ』なぜ？どうすれば…』という見出しをつけて「子どもの本学会」シンポジウムの様子を伝えている。20年前の学生はもっと本を読んでいたのに、今は……という大学教員の嘆きが載っている。たぶん、安保闘争とかや

った時代の若者はよく本を読んでいたのだろう。以降、2024年に至るまで300件以上の「読書離れ」に関する新聞記事がコンスタントに掲載されている。

少なくとも40年前から言っていた。その長きに渡り若者は読書から離れ続け、さらに近年ではパソコンやスマートフォンの普及に伴ってそのスピードはいっそう加速しているという。すごい。そんな勢いで数を減らし続けているのならもうそろそろ絶滅していなければおかしい頃合いなのではないと思うのだけど、本当のところはどうなのだろうか。

ここで去年、話題になった『「若者の読書離れ」というウソ』という本を読んで得た知識を披露したかったのだが、読もう読もうと思って未だ読んでいない。すでに若者ではない筆者も読書離れが進んで久しい。だが、大学図書館が発行するフリーペーパーのこんな隅々まで読んでいるあなたはよほど活字に飢えているに違いないから、ぜひ手にとってみてはいかがだろうか。



『「若者の読書離れ」というウソ：中高生はどのくらい、どんな本を読んでいるのか』
飯田一史著 平凡社 2023年

所蔵情報

『「若者の読書離れ」というウソ：中高生はどのくらい、どんな本を読んでいるのか』 飯田一史著 平凡社

【江別・2層書架：新書 019.5/IID】



編集後記

「書林」104号は、大ボリュームでお届け！心に残るページはありましたか？
ご多用にもかかわらず執筆して下さいました皆さまに心よりお礼申し上げます！！